

駅から 45 分ほど歩いたところの川向こうの高台に西洋造りのひと際目立つ建物が目に付く。地元のメンバーに聞くと旧四郷村の役場であったとのこと予定を変更して立ち寄りこととする。訪ねると内装の工事中で休館となっていて入ることは出来なく残念であった。この室山地区には三重紡績(現・東洋紡の前身)、亀山製糸や酒造会社の工場が残っている。

四郷郷土資料館

三重紡績の創業者、伊藤傳七の寄付金をもとに大正 10 年四郷村役場として建築される。昭和 18 年四日市市に併合され、出張所として使われていた。

昭和 57 年市の指定有形文化財に指定され、地域の産業であった製紙業や酒造業、製茶業などの展示を行う資料館として使われている。

室山のスーパーマーケットで忘年会用のお寿司と飲み物を買って求める。天白川を離れて笹川団地の中央通りを歩き南部丘陵公園に到達したのは 12 時 45 分であった。公園の一角にシートを並べて早速ビールの乾杯となる。コロナ以降、飲食店での宴会を止めて野外でのパーティを実施しているがこのスタイルもまたおつまみものである。



公園の片隅に座り込んで…



遊具がある公園



参加者の皆さん

ビールで乾杯の後は差し入れのお酒とワインでほろ酔いとなり最近の周囲の状況などについて情報交換をして鋭気を養い、昔の現役当時を思い起こす。公園には四日市名物のろくろく首の入道と鯨船を描いたモニュメントがあり租出来映えに感嘆する。14時過ぎ立ち上がって泊駅に向かう。



公園に描かれた入道と鯨船



白髭神社の石標



白髭神社の参道



別府良三中将の刻印

別府中将のお話し

三重県津市の出身。海軍一筋に軍艦に乗り込み、欧米への出張も重ねて、1941年第二燃料廠長、'43年海軍中将となり、退役後'50昭和石油の常務取締となる。四日市海軍燃料廠の跡地を昭和石油に払い下げられるために尽力された貢献者である。その決定を待たず'53年逝去

駅に向かう途中、白髭神社に立ち寄ると石標の側面に『別府良三謹書』の文字が読み取れる。我々は良三さんとは縁はないもののそのご子息の別府様にはお世話になったことを思い浮かべる。白髭神社にお詣した後、泊駅に向かい「今年も良く頑張りました良いお年をお迎えください」のあいさつで解散する。